

第23回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成23年2月

応募者名:金沢市 都市整備局

事業の名称:金沢都市計画道路事業

3・4・15号 橋場若宮線

実施都市名:石川県金沢市

事業目的

都市計画道路 橋場若宮線は、藩政期のまちなみを残し細街路の多い城下町金沢を縦断する大変重要な幹線道路であり、旧市街地を取り囲む金沢内環状道路から市中心部へアクセスする街路事業としては最後の路線として、都市内交通環境の改善に大きく改善しました。

特に、「高岡町(上堤町交差点)～芳斉1丁目(三社交差点)」区間の事業においては、金沢駅と人口集積地区の香林坊・片町を結ぶ2本の並行幹線(百万石通りと昭和大通り)を縦に直結する道路として、中心市街地の交通量分散による渋滞緩和はもとより、無電柱化工事を同時に行うことで、防災機能の強化と都市景観の向上もあわせて効果を得ることができました。

鞍月用水や大野庄用水などの歴史的用水が流れ、長屋と土塀が連なる伝統的な景観が残る地区であったことから、用地手続きと整備手法に細心の注意を払い、16年越しでの完成となりましたが、藩政期来の歴史を刻んだ樹齢400年のクスノキが歩道に残り、緑陰として市民に親しまれる姿からは、金沢の街なみにふさわしい街路になったと言えます。

事業概要

事業名:金沢都市計画道路 3・4・15号橋場若宮線整備事業

路線名:橋場若宮線

事業箇所:高岡町(上堤町交差点)～芳斉1丁目(三社交差点)

事業延長:787m

幅員:16.0m～18.0m(2車線)

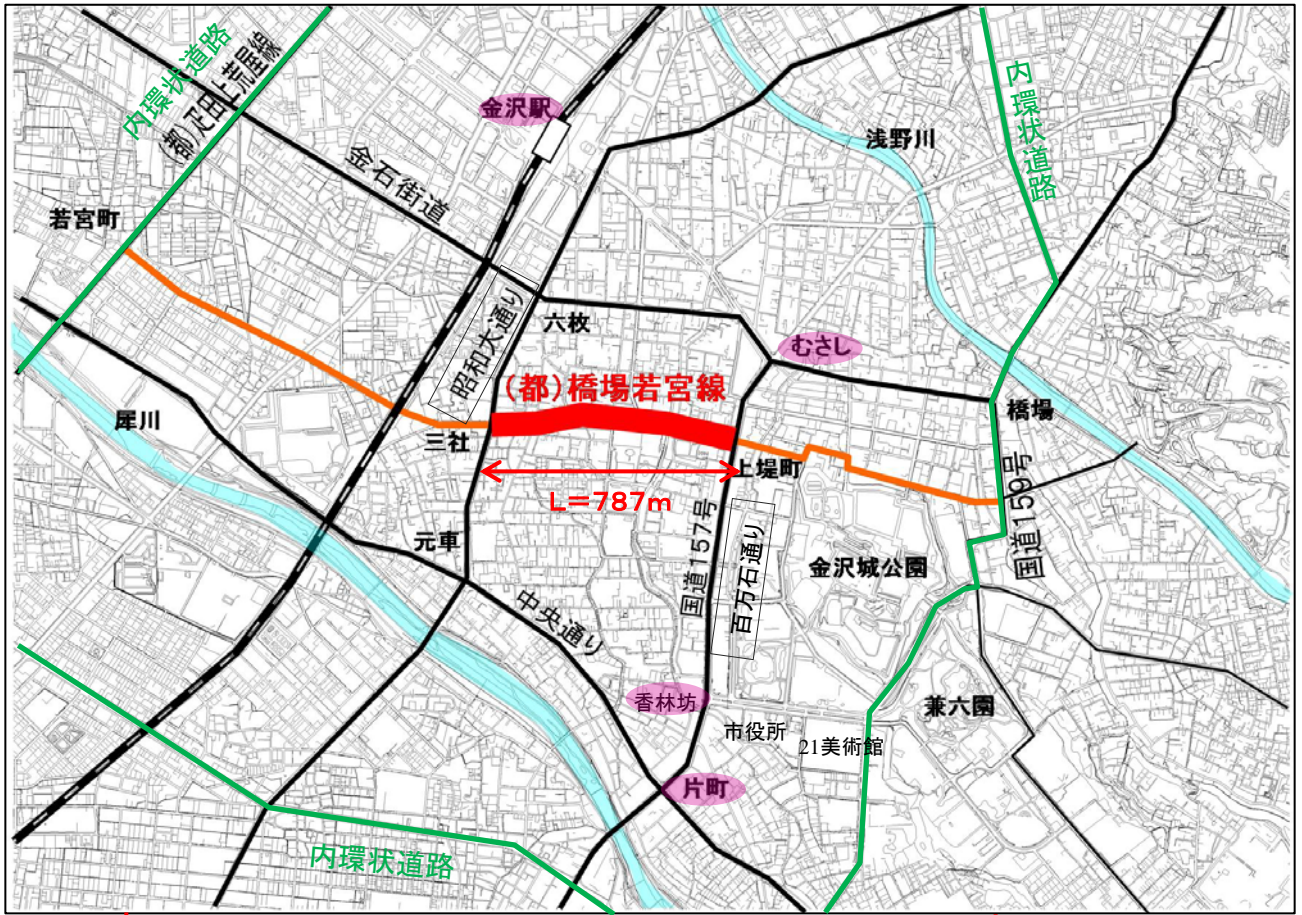
総事業費:約65億円

事業期間:平成5年度～平成21年度

本事業は、橋場若宮線全線約3kmのうち、百万石通り(国道157号)と昭和大通りを直結することで、中心市街地の交通混雑を大幅に解消することができました。

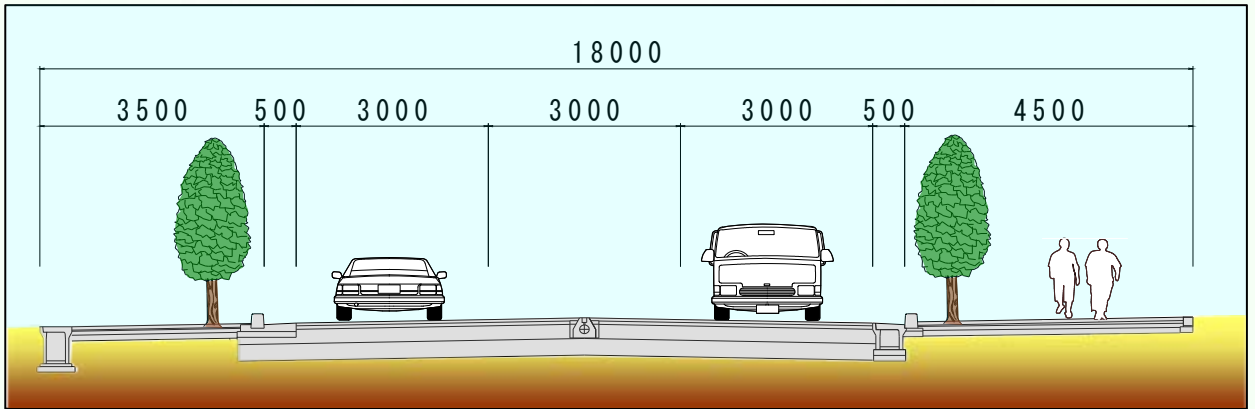
また、無電柱化整備を全線で行い、歩道を拡幅するとともに、28haの区域の浸水被害を防ぐ雨水幹線を道路下に整備したことにより、交通環境と生活環境が格段に向上しました。

事業位置図



← (都)橋場若宮線 全線 3km →

横断図



橋場若宮線の整備効果アピール資料

○交通量調査結果

供用前 平成18年7月20日実測

供用後 平成22年1月30日実測

・交通量の推移

片町交差点～元車交差点 およそ20,000台 → 18,000台(△2,000台)

むさし交差点～六枚交差点 およそ25,000台 → 23,000台(△2,000台)

これまで犀川から浅野川間において、百万石通り(国道157号)から昭和大通りへの主なアクセス道路は、片町交差点から元車交差点及びむさし交差点から六枚交差点に至る2路線しかなく、慢性的な交通渋滞が発生していた。

→ 通過交通車両が分散し、交通環境が整ったことにより、公共交通機関や自転車の利用が促進し、街なかをそぞろ歩く人が多くなった

「整備効果」

○慢性的渋滞の改善

三社交差点 渋滞長 400m → 100m 約300mの減少
(滞留時間 30分 → 5分へ短縮)

「その他の事業効果」

○公共交通の利用促進

市内4番目のふらっとバス(長町ルート)が新設できた

○交流人口の拡大

アクセスが容易となり、玉川図書館、玉川こども図書館の利用者が増え、周辺地域に賑わいが生まれた

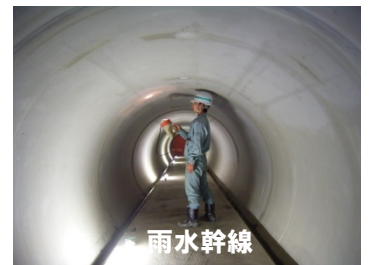
○生活環境の改善

道路下に雨水幹線を整備したことにより、
中心市街地をカバーする28ha区域の浸水被害を
防止できる

○都市景観の保全

料亭敷地内にあった樹齢400年のクスノキを街路樹として
残すほか、クスノキの幼木も植樹し、用水と長屋、土塀が
ある歴史的な街なみを保全した

→ 通行障害との指摘もあったが、都市景観審議会を経て
保存を決定



事業前写真

平成11年10月撮影



平成11年10月撮影



平成17年7月撮影



事業後写真

平成21年12月撮影



平成21年8月撮影

平成23年2月撮影



クスノキ(樹齢約400年)



玉川こども図書館前